



シククハウス対策について意見を述べる専門家たち(北区で)

医療、建築、化学 「各分野が連携を」

シククハウスシンポジウム in Osaka
Ⅲ(読売新聞大阪本社など後援)が十四日、北区内之島の大阪国際会議場で開かれた。医療や建築、化学の専門家や国、府の担当者がそれぞれシククハウス問題の現状を説明、対策として各分野の連携の大切さを強調した。

者の損害賠償請求訴訟などを手がけている関根幹雄弁護士が住宅販売会社と購入者のトラブルについて、特別なシククハウス対策をしないと装って売っているケースもある」と、要領な業者の例を紹介。

国土交通省建築指導課の杉藤崇企画専門官は、建築基準法の改正でホルムアルデヒドなどが規制対象になり、今後対象を増やすなど規制を強化する国の方針を示し、「現在の規制はまさに最低限のもの」と、同法の趣旨を説明。読売新聞大阪本社の井手裕彦論説委員は「国は規制するだけでなく、実際に守られているか

携帯メールで 情報交換

NPO(非営利組織)法人「シククハウスを考える会」が開き、約五百人が参加。パネルディスカッションでは、シククハウス被害

自衛隊イラク派遣 計画見直し求める

高槻市議会が意見書
高槻市議会は十五日、イラクへの自衛隊派遣について

意見書は、「(自衛隊派遣は)人道支援活動だけでなく、事実上の米軍への支援活動」などとしたうえ、支援内容を医療や食糧援助、インフラ整備などに限

加、ミニオン五輪金メダリストで同市内に住む大吉誠司さんの司会で、レシーブやトス、スパイクなどの技術指導が行われ、最後に選抜チームが対戦するフレ

ていい人生を送ってくださったと締めくくった。

午後からは元五輪選手に

「金型製造」に挑戦

アドバイスを受けながら、名札の金型作りに取り組む児童(羽曳野市菅田で)



従業員から「金型は歯ブラシや携帯電話などの型作りに利用されている」と説明を受けた後、名札の製作に挑戦。それぞれ金型に自分の名前を彫って成形機に入れると、次々とプラスチック製の名札ができあがった。参加者の1人、清水勇貴君(12)は「金型製造は全然知らなかったけれど、やってみると面白い。仕事の中身がよくわかった」といい、浅井理男・同社専務は「こうした活動が他の企業にも広がってほしい」と話していた。

羽曳野市立 古市小の8人

プラスチックの成形などに使う金属製の型を作る「金型製造」を、羽曳野市菅田の浅井金型製作所が13日、小学生を対象にした体験講座を開いた。

金型製造業は、後継者不足や海外への技術流出、などの問題を抱えており、同社が「早くから人材育成に取り組み必要がある」と、この講座を企画。同市立古市小学校に持ちかけたところ、6年生8人が参加した。

児童たちは同社の工場を見学。

場所、役割再確認 110番の家めぐり

田尻の児童ら
110番の家

児童らが危険を感じた時に駆け込む「こども110番の家」を回るウォークラリーが十三日、田尻町内で行われた。写真。同町の学校関係者や婦人会で

大阪を 安心の まちに

ト」と名付けている。

十月から、指原員二十四

くるたじりていあんぐる(会長)田口隆文・田尻町立中学校校長、約三千人が、子供たちと一緒に、児童や幼児らが六人ずつ計十グループに分かれて同日、田尻町内で行われた。写真。同町の学校関係者や婦人会で十か所ある110番の家のうち、あらかじめ指定された

力のある選手に
観客は満

TSの

準決勝

第二十二回

カー大会

会主催、

後援)の

が十四日、

やクラウ

都パーブ

が200

(京都を

度目の優

の試合結

◇一回

(兵庫)

(大阪)

4-1セ

(奈良)

ンカJ4

(滋賀)

SC(大

鮮学園千

◇準決勝

1-0日

パール

SCなか

第一回

川学童軟

小路国守

スポーツ

個、読者

◇一回

ヤガース

ヤース

3-0ワ

やバイレ